

魚介藻類養殖視察について

中 村 勇 次

1. 目的

沖縄市は、中城湾海域を中心に延縄漁業・一本釣り漁業・曳き縄漁業・イカ釣り漁業及び刺し網漁業を営んでいるが、東部海浜開発事業により大規模な埋め立てが計画されており、それに伴う漁場喪失で沿岸漁業はますます厳しい立場に立たされることが予想される。よって、これからの漁業として魚介藻類の養殖を視察すること及び近年活性化してきている伊江漁協青壮年部と交流することにより青壮年部活動の方向性を模索する。

2. 交流先

伊江漁協青壮年部及び魚介藻類養殖施設

3. 日程

平成12年10月19日（木）～10月20日（金）

4. 参加者

沖縄市漁協青壮年部

前原健・前川正夫・小嶺仁哉・小嶺仁・
小嶺英仁・知念智

沖縄県水産業改良普及所

中村勇次・瀬底正武・多和田真周・
金城武光・甲斐哲也

5. 交流地の概要

伊江島は、沖縄本島北部の本部半島備瀬から北西約4.5kmに位置する一島一村の離島である。島の輪郭は、ほぼ楕円状で東西8.4km、南北3km、総面積22.88km²である。

漁業としては、ソデイカ漁業、底延縄漁業、トビロープ漁業（1そう曳き）、定置網漁業、刺し網漁業、モズク養殖業、魚類養殖業が営ま

れている。

6. 交流内容

視察は10時30分に本部港に集合して11時の便で伊江島へ。伊江島に着き伊江漁協へ挨拶してから島内で昼食。昼食後、伊江漁協組合員の亀里氏の魚類養殖生け簀を見学。現在伊江漁協では、魚類養殖を営んでいるのは8経営体で、その中で前組合長である亀里氏の養殖生け簀を視察させて頂いた。亀里氏は息子と2人で魚類養殖を行っており、現在はスギを中心にミーバイ・タマンの養殖を行っているとのこと。以前は、マダイ・タマンで養殖を行っていたが、マダイは病気にかかりやすいことと値段が安いこと、タマンは病気には強いが大きくなるのに時間がかかるので、みんなで一辺にセリに出すと値段が下がるので、時期を見て少しずつ出荷しているとのこと。天気が悪い時には魚がないので、多くの養殖業者も出荷してくるので、大量に出荷しても値段が下がるので出荷が難しいとのことであった。養殖施設視察後に伊江漁協2階の会議室にて、沖縄市・伊江漁協青壮年部合同の青壮年部巡回移動相談を実施した。通常移動相談は1漁協に対して行っているもので、合同移動相談という形は今回が初の試みであった。沖縄市漁協青壮年部は、前回の移動相談で紹介できなかった部会別の活動方針についてKJ法を応用した課題選定の方法及び漁漁協青壮年部の意見交換ができ非常に有意義な移動相談が実施できた。移動相談終了後、島内グラウンドへ移動して交流ソフトボールを行った。2試合とも白熱した？好ゲームで後日行われる、漁青連ソフトボール大会に向けて良い練習になった。その後、再び伊江漁協2階会議室に移り組合長も

交えた懇親会を行い、深夜まで懇親を深めた。

7. 交流所感

伊江漁協青壮年部は、ソデイカ漁業等を中心とした漁船漁業者が多いため時化等のときには全員で集まって活動するなど、県内でも非常に活発な活動を展開している。他漁協青壮年部では、業種が異なるため活動時間帯や休日等が違い、

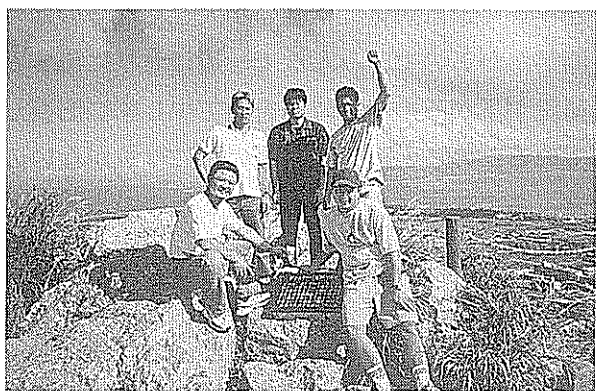
これが青壮年部活動の妨げになっているところも多く、そのため巡回移動相談でも述べられた業態別の集まりを持って課題選定を行っていくことは有効だと思われる。また、伊江島においては漁業者の集合場所として漁具倉庫がその役割を果たしており、このような施設があることも青壮年部及び漁協の活性化につながっているようである。



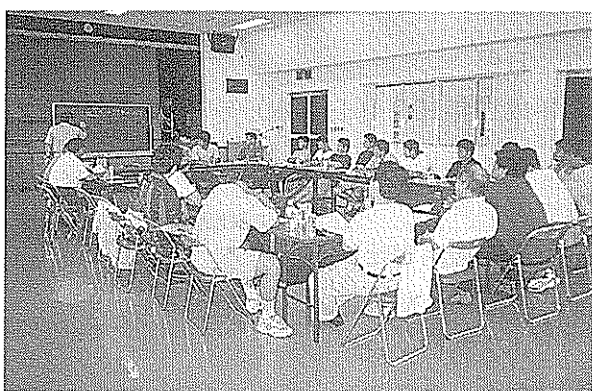
伊江漁港魚類養殖場で亀里氏より説明を受ける



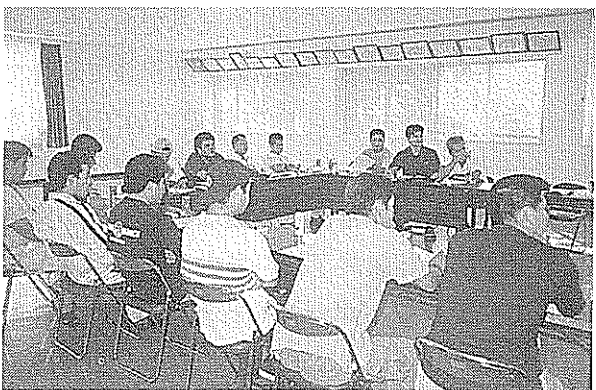
生け簀内を元気に泳ぐスギ



伊江島タッチー頂上にて



伊江・沖縄市合同で行われた青壮年部巡回移動相談



真剣な表情で移動相談を受ける青年部員



交流ソフトボールを終えて